

# 完成区間の概要

E42 阪和自動車道及び湯浅御坊道路は大阪府松原市において、E25 西名阪自動車道やE26 近畿自動車道と直結、近畿南部地区と京阪神および中京地区を結ぶ交通輸送の大動脈になるとともに、関西国際空港へのアクセス道路としても重要な役割を担い、その重要性はますます高まっています。

また、国道42号他道路網が脆弱な和歌山県南部において、交通渋滞の緩和や利便性の向上を図り、沿線地区の発展に寄与するとともに、地震、津波等の災害時の緊急輸送路「命の道」としても機能しています。

- 道路名： E42 湯浅御坊道路
- 区間：御坊IC(和歌山県御坊市野口)～有田IC(和歌山県有田郡有田川町天満)
- 完成日時：令和3年12月18日(土)6時00分
- 延長：19.4km
  
- 道路名： E42 阪和自動車道
- 区間：御坊IC(和歌山県御坊市野口)～印南IC(和歌山県日高郡印南町山口)
- 完成日時：令和3年12月18日(土)6時00分
- 延長：8.7km

## ◆今回完成区間の位置図



# 定時性・信頼性の更なる向上

- 湯浅御坊道路及び阪和道の4車線化により、定時性・信頼性の更なる向上が期待される。



R2.8 有田IC付近(白浜方面)



R2.8 御坊南IC付近(大阪方面)



# 更なる安全性の向上

- 2車線区間では、4車線区間に比べ交通事故が発生した場合、重大事故となる。
- 4車線化することにより、安全性の更なる向上・道路の機能強化が図れるとともに、突発的な通行止が減少すると期待される。

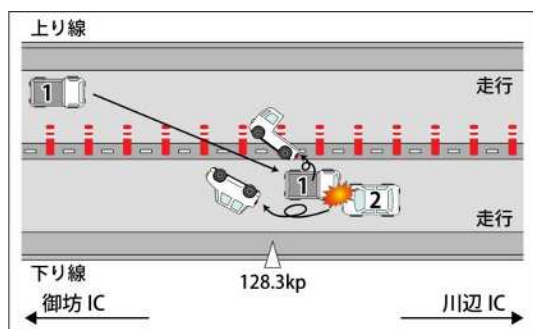
## 《事件事例》

発生日) 令和元年6月3日

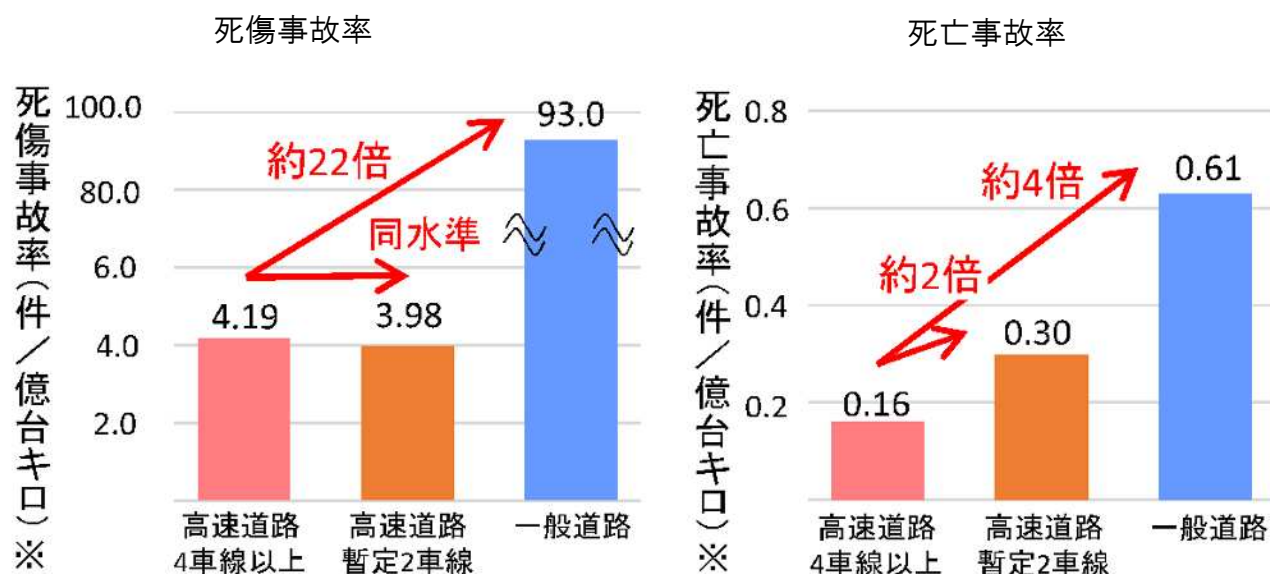
発生場所) 湯浅御坊道路(川辺～御坊)

通行止め) **延べ4時間5分**(川辺～御坊南 上下線)

事故概要) 御坊IC方面から川辺IC方面へ向け、速度不明で走行中、原因不明により中央線を突破し、下り線を走行していた対向車と正面衝突した後、その反動で中央線に跨った。



## 《暫定二車線と四車線以上の事故率》



※ 高速道路: 高速自動車国道(有料) (H25)  
一般道路: H25

# 道路機能強化による信頼性の向上

- 今後発生することが予想されている南海トラフ地震による津波の発生により、並行する国道42号やJR紀勢本線で浸水被害が予測されている。
- 湯浅御坊道路及び阪和道は、災害発生時の代替路として機能するため、4車線化による信頼性の更なる向上と道路機能の強化が期待される。

## ■ 南海トラフ地震の津波による浸水予測図



出典：H25和歌山県津波浸水予測図(和歌山県)を基にNEXCOで作成

## 【想定される大津波発生時のイメージ】



湯浅御坊道路の標高約20～118m  
 阪和道の標高約11～76m

## ■ 湯浅御坊道路・阪和道沿線市町の最大津波高

市町村	最大津波高
広川町	9m
御坊市	16m
田辺市	12m

出典：H25和歌山県津波浸水想定(和歌山県HP)

# 災害時における通行止め期間の短縮

- 豪雨によるのり面崩壊等の災害時において、2車線区間では復旧工事の完了まで車線の確保が困難なことから、通行止め等が長期間必要となる。
- 4車線化により、災害時に片側2車線を対面通行で交通を確保することにより、通行止め期間の短縮が可能となり、道路機能の強化に繋がる。

## 《暫定2車線区間の災害事例》

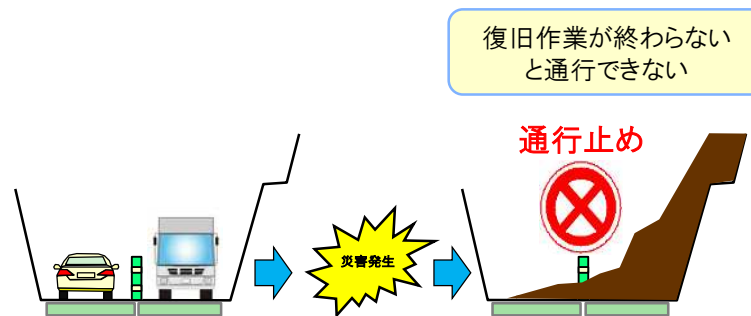
区間：東九州自動車道  
 椎田南IC～豊前IC  
 概要：平成30年7月九州豪雨



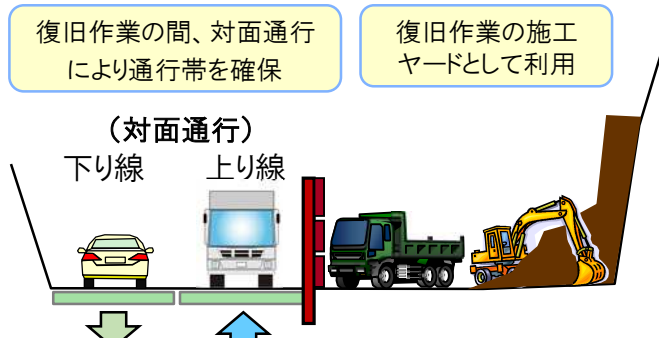
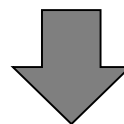
## 《4車線区間の災害による暫定運用例》

区間：九州自動車道  
 溝辺鹿児島空港IC～加治木JCT  
 概要：令和元年7月九州豪雨

九州道では上り線が被災したが、4車線であったため下り線を活用して早期に交通機能を確保



暫定2車線の場合



4車線道路の場合

